

令和6年度第1回「岐阜県木の国・山の国県民会議」議事概要

日時：令和6年8月5日（月）14：30～16：30

場所：岐阜県庁 2003、2004会議室

【議題】

（1）会長選出について

→伊藤委員を会長に、中島委員を副会長に選出

（2）各委員の所属専門部会、令和6年度スケジュール（案）について

（三宅林政課長が資料1に基づき説明）

→質疑無

（3）第4期岐阜県森林づくり基本計画に基づく令和5年度施策の実施状況報告書（案）について

（三宅林政課長が資料2に基づき説明）

【加藤（正）委員】

達成率がマイナスになっているものについて、正しく評価できていない。

評価方法を見直すか、マイナスの場合は別の方法で評価するような書き方をした方が良いのでは。

【鈴木政策企画係長】

評価方法は、基本的にプラスになることを想定しているものであり、マイナスになることを想定して設定していない。マイナスの部分については、他の実施報告書では「マイナス」というような表現で、具体的な達成率を記載せずに評価しているというものもある。昨年度、当報告書ではマイナスの達成率の数字を出していることから、現在このように表記している。

【加藤（正）委員】

達成率がマイナスの場合は、現在の評価方法は算出方法としてそぐわないと思われる。達成率がマイナスの場合は、別の評価方法にするか、目標値に対して実績値の割合を記載する方法等何か工夫してはかがか。

【三宅林政課長】

ご指摘を踏まえて、より分かりやすい表示になるよう、再度検討する。

【伊藤会長】

評価そのものが達成状況を分かりやすく伝えるために行っているものであるため、皆さんに分かりやすいような表現方法を工夫いただきたい。

【長瀬委員】

J-クレジット、G-クレジットについて、基本的に、各企業等が自社の温室効果ガス排出量を把握し、ク

クレジットでオフセットしていくのが本来の考え方という理解で良いか。

【伊藤森林吸収源対策室長】

カーボンニュートラルの達成には、まずは自社の温室効果ガス排出量を把握し、排出削減の努力をする。そのうえで削減できずに残った部分はカーボン・クレジットを使ってオフセットすることになる。オフセットについては、G-クレジットであってもJ-クレジットであっても、どちらを使っていただいてもよい。

林政部としては森林づくりの応援という観点から森林由来のクレジットを使っていただければありがたいが、脱炭素社会の実現でいけば、削減系、吸収系のどのクレジットでも構わない。

【長瀬委員】

現在J-クレジット、G-クレジットを購入している企業は、自分たちの温室効果ガス排出量を把握して買っているか。

【伊藤森林吸収源対策室長】

クレジットの購入に対しインセンティブをつけていることから、多くの建設業の方は、自社の温室効果ガス排出量の把握はできていないと思っている。

今後、大企業だけではなくて中小企業、地域の建設業も、自社の温室効果ガス排出量の把握、削減する時代が来ると考えている。その時は本来の目的に沿ってクレジットを購入いただければいいと考えている。

【吉田委員】

住宅着工戸数が全国的に落ち込んでおり、県産材を多く使う中小工務店は大変苦勞している。そのような状況の中、リノベーションに力を入れる工務店が増え始めており、家具や内装までを含めた木質化を複数の工務店で協力してやっという流れが発生しているように感じる。新築だけでなく、リノベーションの方も支援を手厚くしていただけたらと思う。

また、近隣県でも岐阜県産材を使いたいと言ってくれる方も増えているように感じるので、そちらの支援策の検討もぜひお願いしていきたい。

【吉峯木造建築推進室長】

現状では、家づくり支援事業で新築、改修の支援をさせていただいているところだが、もう少し別の切り口でも支援をという話も業界の方々からいただいているところ。引き続き、より良い支援ができないか検討を続けていきたい。

【伊藤会長】

現状に合わせた柔軟な支援策を行ってほしい。

【山川委員】

2点お伺いしたい。

1点目は有害鳥獣対策について。獣害対策で設置するツリーシェルターは、取り外しの作業手間の問題や、

マイクロプラスチックの問題がある。このようなものに頼らなくても出来るような林業を目指して、見回りや個体数のコントロールをしていく必要があると考える。

2点目は100年の先の森林づくりを進めていくにあたり、ボトルネックになっていることについて。1つは、林業従事者、特に保育に携わる人が不足していること。皆伐面積と苗木の生産本数の関係を見ると、主伐は進んでいるが、再生林・保育に携わる人材が不足している。下刈り等に労力を要するということもある。どうやって人を集めていくのかということを考えていく必要がある。もう1つは、木材が使ってもらえていないこと。住宅着工戸数が減少しており、内装木質化、CLT・集成材等を活用した高層階の木造建築の建造を推奨していくと良いのでは。入口の「植えて育てること」と、出口の「木材を使用すること」の両輪で進めていくことが大切だと考える。

【石田森林経営課長】

獣害防除については、林政部では、防除に重点的に取り組んできた。これまでツリーシェルターによる獣害防除に取り組んできたが、委員ご指摘のとおり、取り外しについても考慮する必要があるため、今後取り外しに関する準備を進めていきたい。獣害の見回りについては、事業者自体に当事者意識が薄いため、事業者にも取組みを働きかけていきたい。

【小木曾林業改革室長】

森林の保育を行っていくには、担い手の確保も必要であるが、いかに手間・労力を減らしていくのかということも必要であると考えている。ドローンによる苗木運搬による省力化や、エリートツリーの導入、下刈りの機械化等新しい技術の導入も検討していきたい。また、まだどうなるかは不透明であるが、外国人材の活用にも期待していきたい。

様々な課題はあるが、新たにできることがないかしっかり検討していきたいと考えている。

【吉峯木造建築推進室長】

住宅着工戸数が落ち込んでいる中、非住宅建築物へ新たに取り組む意思がある事業者が複数おられると伺っている。県でも、非住宅を主に扱う技術・知識を学ぶための木造建築マイスター養成講座を数年前から開始しているところ。また、県産材利用促進条例に関連して、協定を締結した事業者に対して、県産材を使った非住宅建築の木造化、内装木質化、木製品の導入に積極的に取り組んでもらえる案件に対しては、補助のかさ上げ等を実施しているところ、非住宅建築物の木造化に携わる建築士の方が活躍できるような場を増やしていけるよう、施策を検討していきたい。

【伊藤会長】

野生鳥獣管理に関しては、林政部だけの取組みでは不十分であり、また市町村との連携も必要になる場面もあると思われるため、林政部の施策の枠を超えていくところも含めて総合的に取り組んでいただく必要があると思う。その点もご検討いただきたい。

（４）「森林文化アカデミービジョン2040（案）」について

（寺田森林文化アカデミー副学長から資料3に基づき説明）

【山川委員】

一部難解な部分があるため、県民に分かりやすく内容を示せるよう、表現の見直しを検討してはどうか。

私は、森林文化アカデミーの中でも、morinos を初めとする環境教育への取組みが大変素晴らしいと考えている。今後 20 年、30 年と木の文化について発信していくのは、森林文化アカデミーの卒業生だと思われるので、期待している。

【寺田森林文化アカデミー副学長】

分かりやすい表現になるよう工夫していきたい。環境教育を評価いただき、大変ありがたい。今後、毎年のカリキュラムの編成や事業計画の策定にあたり、内容を充実させていきたい。

【岩井委員】

新たに林業に従事する方に対して研修を行っているが、最近では林業を真剣に学ぼうとしている人が多い。林業は一般的にも危険な仕事だと言われているが、林業を頑張っている人たちを見て、そのような方々を目指してくる人も多くいる。

森林文化アカデミービジョンにおいて、学生への林業関係資格取得支援が記載されており、大変心強く感じている。資格を取得させるだけでなく、取得した資格を今後の業務に生かすことができるような教育を行ってほしい。

【伊藤会長】

林業を取り巻く環境から考えると、林業は社会的価値が高いとは言えない状況に現場で直面することが多いが、アカデミーで学ぶことによってその雰囲気跳ね返すぐらいの強い意志を持って出られるように、林業の社会的価値を若い人たちにどんどん教えるを頂ければということか。

【岩井委員】

なかなか難しいところではあるが、林業に明るい未来を描けるような、今の時代に沿った教育を行ってほしい。

【伊藤会長】

全体的な森林に対する社会価値観としては非常に高まっている。それを現実的な経済の枠組みに置き換えていくのが一つと、もう一つは、それを仕事としての社会的価値として働く人、それから社会の人たちが認識できるような形に作っていく必要があるので、それを調整していくためにもアカデミーの役割が大きいのではないかと考える。ぜひ、教育の中に反映いただきたい。

【駒瀬委員】

岐阜森林管理署と森林文化アカデミーの間で、令和 5 年 3 月に連携協定を結び、国有林を学生の授業の場として提供させていただいている。

今年度から、具体的に何かやっという模索している中で、森林作業道を使った授業を検討したいという話もあり、学生の勉強の手助けになればと考えている。今後ともよろしくお願ひしたい。

【伊藤会長】

国有林に限らず、様々な協力関係を持っている機関があると思われるので、その力を活かしていただければよいと考える。

【その他報告事項】

(1) 「ぎふ森フェス」の開催について

(山岸森林活用推進課長が資料4に基づき説明)

→質疑無

(2) 「ぎふ森の恵み感謝祭」の開催について

(吉峯木造建築推進室長が資料5に基づき説明)

→質疑無

(3) Gークレジット制度の状況について

(伊藤森林吸収源対策室長が資料6に基づき説明)

→質疑無

<その他>

【伊藤会長】

県民会議が設置されてから18年がたつが、本会議では多くの議題があり、限られた時間の中では、より多くの委員の皆さまから意見を頂くのは難しい。そのため、各部会で議論していくことになるが、部会をまたがるようなテーマが出てきており、そのようなテーマについて、どのように共有し議論していくのかが課題になってきている。

そのような事態を受けて、事務局の方でも、県民会議の在り方や部会での意見交換方法等の仕組み、運営の仕方等について検討いただいていると伺っている。皆さまの意見が会議に反映されるよう、会議ないしは部会を通して皆様から多くの意見を出していただきたいと考えている。事務局もそのあたりを汲んで、より良い会議にしてほしいと考えている。